

第七十九日目

師 範：１９２２年に調印されたワシントン海軍軍縮条約は，１０年間の約束でした。
期限が切れる前に，この条約の期限延長を１９３６年までとしました。
さらに前の軍縮が主力艦についての約束でしたので，さらに補助艦の軍縮に発展させようということになりました。
日本政府は国際協調を重視して，調印を進める立場をとりました。
しかし軍部は反発しました。
ワシントン海軍軍縮条約は５か国で調印したのに，今度はフランスとイタリアが不参加であること。
今度の補助艦の保有量はアメリカ・イギリスの６９．７％でしかないこと。
これでは，海軍力が不安であるというのが理由でした。
ロンドン会議で結ばれた海軍軍縮条約はさまざまな問題をもっていました。



１９３０年 ロンドン会議で海軍軍縮条約が結ばれる。

この年を覚えましょう。

コン太：では



「戦がなくなればよいロンドン海軍軍縮条約」

「いくさ」は１９３，「なくなれ」で０を表すと考えました。

ペン太：短い言い方で

「海軍が身を縮めるロンドン会議」

「み」は３，「を＝オー」は０を表します。



コン太：もうひとつ

「戦いに行く身を考えてと海軍」

ロンドンも軍縮条約も出てこないところが難ですが。

「いくみを」が１９３０ということです。

師 範：いろいろ出ましたが。

最初のは長すぎますね。

コン太：では改めて

「戦なしのロンドン海軍軍縮条約」

「ロンドンで戦をなくす海軍軍縮条約」

とします。

ペン太：コン太君はやけくそみたいにつくっています。

おすすめは何か。最後のがいいのではありませんか。